

## 「平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果についての学長コメント」

国立大学法人大分大学長

北野正剛

本法人を始めとする各国立大学法人が6月末に提出した「平成23年度業務実績報告」に対する評価を審議するための国立大学法人評価委員会総会が、11月7日（水）に開催されました。同総会での審議・決定を受けて、同文部科学省の国立大学法人評価委員会事務局から、本法人の評価結果について、別添資料のとおり通知がありましたのでご報告いたします。

本法人の評価結果については、「4つの項目別評価」（「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」、「その他業務運営に関する重要目標」）のすべてが5段階評価の上位から2段階目である「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」という良い評価を得ました。

国立大学法人・大学共同利用機関法人の改革推進状況（別添資料3）の中で、「各室のデータベースによる施設の有効利用(p6)」や「東九州地域医療産業拠点構想（東九州メディカルバレー構想）(p19)」、「寄付講座（臨床医工学講座）の設置(p21)」といった取組については、特色ある取組として取り上げられています。また、同資料では、本学を含む「九州地域11国立大学法人間の大規模災害等発生時の連携・協力に関する協定(p2)」についても評価されています。

さらに、東日本大震災からの復旧・復興等に向けた国立大学法人等の取組（別添資料4）においても本学の取り組みは種々取り上げられています。

このように、第2期中期目標期間の2年目である平成23年度実績の評価結果は、本法人にとって、ほぼ満足できる結果となりました。

今後も、中期計画の完全達成に向けて毎年度計画を着実に実施し、地域の「知の拠点大学」としての責務を果たせるよう、役職員一丸となって法人運営に取組んで参りますので、県民の皆様の御理解と御協力をお願いします。